



○孫文 中国革命の父といわれる。



○辛亥革命のレリーフ 1911年、武昌で革命軍が蜂起し、辛亥革命が始まった。



○袁世凱

## 中華民国の成立

日清戦争で勝利した日本には、日本の近代化に学ぼうとして、多数の清国の留学生が集まっていた。1905年、孫文は留学生とともに東京で中国同盟会を結成し、**三民主義**（民族の独立、民権の伸長、民生の安定）を掲げて、中国の革命運動を開始した。そして、1911年、中国に辛亥革命がおこって、清朝は幕を閉じた。翌年、南京で**中華民国の成立**が宣言され、孫文が臨時大総統になった。しかし、まもなく袁世凱に権力の座をうばわれた。革命の理想は無視され、中国は統一性を失い、武力をもつ地方政権である大小の軍閥によって、各地方がばらばらに支配されるようになった。国内のこの分裂状態は、その後約40年も続く。

日露戦争における日本の勝利によって、中国や朝鮮などアジア諸国は、近代国家を目指すナショナリズムに初めて目ざめた。一方、日本は、欧米列強の仲間入りをし、力の均衡という新しい秩序に組み込まれていった。日本には、大国としての義務と協約の中で進む以外の、いかなる道も残されてはいなかった。こうした国際政治での日本の苦しみを、当時の中国人や朝鮮人は、理解することができなかった。そして、日本人も、中国人や朝鮮人の苦しみを理解する心を、しだいに失い始めていた。

○辛亥革命のレリーフ

1911年、武昌で革命軍が蜂起し、辛亥革命が始まった。



中華民国の成立

日清戦争で勝利した日本には、日本の近代化に学ぼうとして、多数の清国の留学生が集まっていた。1905年、孫文は留学生とともに東京で中国同盟会を結成し、三民主義（民族の独立、民権の伸長、民生の安定）をかかげて、中国の革命運動を開始した。そして、1911年、中国に辛亥革命がおこった。翌年1月、南京に革命派の代表が集まって孫文を臨時大総統に選び、中華民国の成立を宣言した。清朝政府の実力者であった袁世凱は、革命派と結び皇帝を退位させて清朝をほろぼし、その引きかえに孫文から大総統の地位をゆずり受けた。ところが、大総統に就任した袁は、権力の強化をはかって革命派の弾圧を始めた。革命の理想は無視され、中国は統一性を失い、武力をもつ地方政権である大小の軍閥によって、各地方がばらばらに支配されるようになった。

日清戦争で勝利した日本には、日本の近代化に学ぼうとして、多数の清国の留学生が

集まっていた。1905年、孫文は留学生とともに東京で中国同盟会を結成し、三民主義（民族の独立、民権の伸長、民生の安定）をか

げて、中国の革命運動を開始した。そして、1911年、中国に辛亥革命がおこった。翌年1月、南京に革命派の代表が集まって孫文を臨時大総統に選び、中華民国の成立を宣言した。清朝政府の実力者であった袁世凱

は、革命派と結び皇帝を退位させて清朝をほろぼし、その引きかえに孫文から大総統の地位をゆずり受けた。ところが、大総統に就任した袁は、権力の強化をはかって革命派の弾圧を始めた。革命の理想は無視され、中国は統一性を失い、武力をもつ地方政権である大小の軍閥によって、各地方がばらばらに支配されるようになった。



○孫文 中国革命の父といわれる。



○袁世凱